

特定非営利活動法人 ピアソン会

第71号

2016.11.01

## ピアソン便り

発行人：吉田 邦子（理事長） 編集人：伊藤 悟（理事）

ピアソン会事務局  
 （事務局長 伊藤 悟）  
 〒090-0036  
 北見市幸町7丁目4番28号  
 TEL・0157-31-1215  
 ピアソン記念館内  
 AM.9:30～PM.4:30  
 e-mail アドレス  
 pierson@yacht.ocn.ne.jp



【写真上】来館された時、ベランダでの記念写真（写真中央に川崎マミさん、左横に川崎景介氏。後方向かって一番左側伊藤悟事務局長、その右側に吉田邦子理事長）。

マミさんは、六歳から十八歳の高校を卒業（1950年）するまで、ピアソン邸が柏樹荘と呼ばれていた時代の住居で過ごした後、アメリカのミズーリバレー大学へ留学するためこの北見を離れました。

マミさんが25年前に出版した「あした泣こう」という自叙伝に、幼少時の住まいについて次のように記述しています。

7月8日、唐笠学医師（柏樹荘時代）の次女川崎マミ（マミフラワーデザインスクール総長）さんが来館されました。少女時代を過ごした思い出の住居を、ぜひ訪問したいという願いから、現マミフラワーデザインスクールの校長を務める川崎景介氏（マミさんの次男）同行のプライベートの来館でした。

## スタッフ写真⑮

## 素敵な来館者たち！

そのところどころにカシワ、アカダモ（ハルニレ）、カラマツなどの木々が点在していました。『略一』

《庭の中にはアンズの木がたくさんあり、春が深まると花びらが一面真っ白。まるで花びらの絨毯です。ほかにもブラックベリーやラズベリーなどの果樹木がありました。みなピアソンさんがフィラデルフィアからわざわざ苗を持ってきて植えられたのだと聞きました。早起きしないと鳥たちに食べられてしまふベリーをバスケットにいっぱい摘んで帰ると、母はおいしいジャムを作ってくれました。そう、あれはまさしく『赤毛のアン』の世界でした。》



【写真左】ピアソン記念館のベランダに座り、ハルニレの太木の中、そよぐ風の音を聞きながら、遠い昔に思いを馳せているように庭の木々に視線を注ぐマミさん。



【写真左】柏樹荘時代のベランダ（この頃はベランダを一つの部屋として使用していた）の横に、向かって右側がマミさん、左側が姉の摩耶子さん。

《私たちの住む「ピアソン館」には、野菜や医薬品を貯蔵しておく地下室がありました。その地下室で、父が夜中にアメリカと無線で連絡を取り合っているーそんな噂が立ったのです。英語ができ、外国人の知己もあり、機械にも強い唐笠先生ならやりかねないーそう思ったのでしょうか。（略）

その朝、憲兵隊は土足で上がり

ピアソン館（柏樹荘）を住居としていた頃を、夢のような世界であつたかのように記述されていますが、実は戦争末期のころの唐笠家には、過酷な訓練がありました。その頃の事を『父にふりかかったスパイの容疑』という章で次のように記述しています。

込み父の書齋を無残に荒らした末に、読めないものだから、英語やドイツ語の医学書をはじめ聖書やキリスト教関係の書物など洋書を全部、母に命じて庭で焼かせたといいいます。

母の言葉どおり、私は翌日から普通に学校へ行きました。しかし、一夜にして「犯罪者の娘」になつてしまったのですから、クラス仲間の私を見る目が違うのは当然。冷やかな風当たりを感じながらも、母のような毅然とした態度をつとめてとるようになっています。気丈な母のお陰で、父の不在中も、わが家はこれまでどおりの営みを続けることができました。病院も副院長を中心に運営が続けられました。時折、小学校一年生だった弟が「やーい、スパイの子供」と石を投げられて、泣いて帰つたりしました。

父が丸坊主になつて、驚くほど痩せ細つた体で帰ってきたのは、三カ月後のことでした。その間にどんな仕打ちを受けたのか、父は詳しくは語ろうとはしませんでした。「唐笠人脈の主要人物」ということで父と一緒に北見キリスト教会の牧師さんも逮捕され、二人して網走の刑務所に入れられたのですが、その牧師さんからあとになつて漏れ聞いたところでは、蹴飛ばされたり鞭で打たれたり、ずいぶ

らんだい拷問を受けたのだとか。本当に恐ろしい時代でした。》

ベランダに一人座り、遠い昔を思い出すかのようなママさんの後ろ姿を見ると、私は不意にこの『スパイ事件』のことを思い出していました。現在2階の展示コーナーに『唐笠何蝶記念室』が開設されています。そこにはスパイ事件があつたことだけは簡単に説明されていますが、それ以上の記述はされていません。私も詳しい状況を知らないまま今日にいたつておりました。

偶然の事ですが、川崎ママさんが訪問される一ヶ月前に、この事件を詳しく記載した文献を見つけ事ができていました。また、それに関連する本としてインターネットの古本屋さんから貴重な本も入手する事ができていたのです。その時に、川崎ママさんの自叙伝「あした泣こう」と「花のおむこうにみえたもの」の中に、子供時代の辛い思い出として「父親のスパイ嫌疑事件」の記述があるの思い出し、再度読み直していた頃、偶然のママさんご訪問だったので、改めて、この事件を正確に知っていたただく事は、ピアソン記念館にとつても重要ですので、入手した文献から事件概略項目を下記に掲載致します。(伊藤ノ記)

北海道の北見教会で起つた憲兵隊による牧師と信徒の逮捕事件。1945(昭和20)年4月網走憲兵分隊長の指揮下の兵20余名が、北見教会(現在日本基督教会に所属)の牧師館(牧師三好新蔵)と、同教会長老唐笠学医師その他主だった信徒宅を臨検。証拠品として三好の蔵書その他を没収し、三好・唐笠の両名を憲兵隊の独房に拘置。三好は40日間、唐笠は32日にわたり過酷な取調べを受けた。戦争末期で敗戦のきざしが濃く、人心は極度に動揺しており、オホーツク海網走海岸に米軍が上陸するとの噂もあり、憲兵隊ではキリスト教徒が利敵行為を行う可能性が大きいと考え、この地方の代表的教会である北見教会の牧師と信徒の逮捕となつたものである。最初に不敬罪、次いで戦時下言論取締法を適用し、5年内外の禁固に処して利敵行動を抑制しようとした。また強引に教会と幼稚園を閉鎖して郷土防衛軍熊部隊司令部に徴用し、牧師の妻とふたりの子供も監視下に置き、唐笠産婦人科病院は戦時

# 「北見教会憲兵隊事件」

## きたみきようかいけんぺいたいじけん

### 「日本キリスト教歴史大事典」教文館／発行より

下特設病院に強制改組させられた。 検査当局が憲兵の提訴を却下したことにより、戦時労働動員署を通して三好は帯広市郊外の飛行場設定第一工事陸軍部隊の重労働に追いやられ、8月15日の終戦の日に及んだ。(文献)「バビロン女囚の記」1967、三好新蔵)



炉辺双書2「バビロン女囚の記」著者／内田ひで、近藤治義・三好新蔵。発行所／ことば社。

この中に、『私の被疑事件』として、三好新蔵牧師が14ページにまとめて記録している。

検査の一年半程前から教会へスパイを送り込んでいた事など、当時の状況がよくわかる。

ピアソン記念館の【ピアソン文庫】に収蔵していますので、読みたい方はご連絡ください。

## 第14回文化サロン de ピアソン

# 講習会「クリスマスリースを作ってみよう!!!」

～ 「リースづくり講習会」とクリスマスバザー ～

- ◎場所：講習会：ピアソン記念館2階応接室 予約申込20名。材料費1,000円必要。
  - ◎日時：2016年11月27日(日曜日)10時～15時の希望時間(制作1時間半必要)
  - ◎申込：NPO法人ピアソン会(電話0157-31-1215)
  - ◎バザー：クリスマス飾付け用オーナメントの販売。当日来館自由です。
- ※詳しい事はNPO法人ピアソン会へお問い合わせください。





# 第10回リードオルガンコンサート終了!

10月15日土曜日の午後5時より、第10回リードオルガンコンサートが、一階展示室にて開催されました。

このコンサートは、ピアソン夫妻が愛用していたメイソン&ハムリン社(アメリカ)が1878年(明治11)年に制作したリードオルガンを使用してのコンサートで、今回は地元

の音楽家、藤田貴光氏のジャズ演奏でのコンサートでした。60名を超す来場者の中、最初の曲は「ブルームーン」の演奏から始まりました。続いて「フライミー トゥーザムーン」など、ジャズメロデーの代表的な曲を解説を織り交ぜ5曲ほど演奏し、館内の雰囲気もようやく盛り上がりつつ



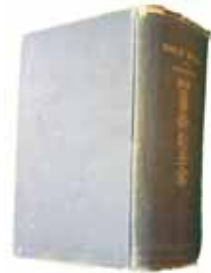
【写真右】オルガン奏者の藤田貴光氏の演奏風景。

ころ、「オータムリーブス(枯葉)」の演奏がありました。

この時期は、ピアソン記念館の庭には、カシワ、ハルニレ(アカダモ)、クルミ、カエデ、などの落葉樹の色とりどりの枯葉が風に舞う季節でもあり、皆うつとりの曲に引き込まれていくように鑑賞していました。

「枯葉」の後も4曲「ハニーサックルローズ」、「ヒムトウフリーダム(自由への讃歌)」など、ジャズのスタンダード曲を演奏。ラスト曲として「ホワット・ア・ディファレンス・ア・デイ・メイド」の演奏がありました。来場者のアンコールの声があり、アンコール曲として、いずみたく作曲「見上げてごらん……」の演奏がありました。目を閉じ、ピアソン記念館の庭から見える夜空の星々を想像しながら聞き入っていると、開拓時代にこのピアソン邸に集っていた人々と共にいるかのように感じました。小一時間のコンサート、伝統の調べに満足した一時でした。

【写真下】寄贈聖書の「略註新約全書」



今年の八月、北見市の親戚矢野聰氏から、所蔵している聖書をピアソン会に寄贈したい旨の申し出をいただいた。

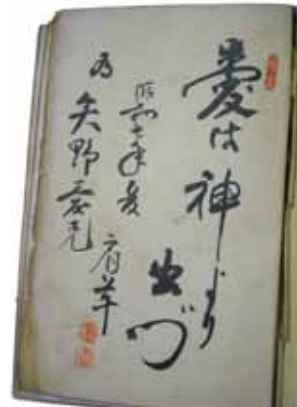
夫人がピアソン記念館で展示されている「聖書」を見かけ、大切に保管しているものと同じものだったので、私がピアソン会に関わっていることを知り、連絡をいただいた。

その聖書は、『ピアソン聖書』と呼ばれている「略註新約全書」の1927(昭和2)年の改訂版で父上の遺品であるということだった。

聖書は父上が昭和7年に知人から戴いたものだが、その知人の氏名は分からないようだ。表紙裏の見返しには「愛は神より出づ 昭和七年夏 肩羊 為矢野愛兄」と書かれてあった。私が戴きに行き、ピアソン会に届けたが、北見市内の一般の人からの寄贈は初めてのことでそうだ。

父上矢野俊一氏は北海道真狩村にて明治42年に出生、一家で俊一

【写真下】聖書の表紙裏の見返しにある書き込み。



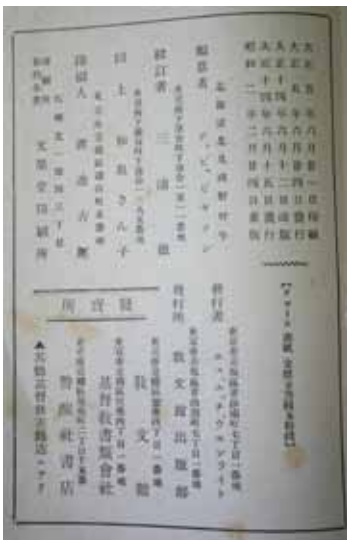
中山 一夫(ピアソン会理事)

弟で建立した時の墓碑銘には聖書から取った「真実明照」という言葉を記していること等から信仰生活がかがいがい知ることができ、優しく思いやりのある人であったということも考え合わせると聖書を大切に持っ

氏が5歳(大正3年)の時に遠軽村(旧上湧別村)学田に住むことになった。十代で教会の日曜学校に通い聖書と出会うことになる。その当時、ピアソンさんは野付牛から遠軽教会へ伝道に出かけることがあり、きつとピアソンさんと出会っていることも類推される。その後一家で昭和の始めに野付牛町に転居し「ぜにやパン」を開きパンを売り歩いた。結婚後、戦前からは農業共済に勤めていたが戦後は農業協同組合に改組されてからも引き続き勤めて、定年を迎え、平成2年に82歳で逝去された。

子どもたちの名前を聖書の言葉から取ったり、矢野家のお墓を昭和40年代に兄

【写真左】寄贈聖書の奥付。初版の大正5年から11年間で5回改版や重版を重ね、この昭和2年版が最終版である。



# 「ニュージージーランドからの便り」第4回

ピアノン会顧問 グラハム・ハード氏



●2016.8.7

◇ここニュージージーランドは真冬です。最近風や雨が多かったです。今日は快晴で寒いです。私は薪のぬくもりを楽しんでいます。午後には湾上に多くのパラセイラーが見えました。とても寒かったに違いありません。◇シエークスピア公園にある農場のラムは生後3週間くらいで、とても成長が早く、母親が草を食む間に仲間同士でもつれ合って遊んでいます。◇先日姉のジュディが、猫車で腐葉土撒きを手伝ってくれました。ジャクソンも押してみたいと言ってやってみました。今月末に3歳になります。◇明後火曜日にワングアイまで南下します。来年また良い実を結ぶように、春先の成長前に果樹の剪定などします。◇ピアノン会の皆さんによくお伝えください。

●8・30

◇北見地方の台風被害を知りました。ひどくなければ良いのです

が。こちらは風や雨の冬の天候が続いていましたが、今日は日が照っています。◇グレース(姪の娘)がホッケーに出るので、土曜日に皆でオークランドへ見に行きました。子どもたちのサタデーモーニングスポーツはニュージージーランドの伝統になっています。コーチやレフェリーは親たちのボランティアで、チームは、学校との繋がりがよりむしろクラブ的なものです。この頃は男子と女子が同一チームに入っていて、また、さまざまな国籍を持つ子供達でなっています。オークランドは多文化社会です。すべてのグループが、うまく解けあって活動を楽しんでいるのは見ていて好ましいものでした。競技は、高度の競争よりは楽しさが主ですが、子供たちは熱心にやっています。7歳のグレースは運動が好きで、1点得点しました。◇今月初めのワングアイへの旅はとても楽しかったです。果樹を剪定し、新たにプルンと2株のグスベリ、ピーチコット(ピーチとアプリコットを合わせた品種)を植えました。天候と土壌の状態が良かったのでうまく成長してそのうち実をつけるでしょうが、吹きつ

ける強風に耐えられるように強くなければなりません。◇次の家族ぐるみの素晴らしい行事は、10月半ばシドニーで挙げる甥の結婚式への旅行です。それまでにもう一度ワングアイへ行つてきます。ピアノン会の方々によくお伝えください。

●9・5

◇台風関連の新聞記事など見て修復に大変な時間がかかると思います。今朝NHKと北海道新聞電子版をチェックしました。札幌函館間の列車は再開したそうですが、まだ始まりで、他の路線ができるだけ早く復旧してもらいたいですね。◇天候は穏やかに春に移行しています。庭のコブシの蕾がたくさん開きました。トウイ(Pason bird 美しい鳴き声の島固有の鳥、マオリ語)や他の鳥たちが惹きつけられ、今、さえずりが聞こえています。◇ピアノン会の方々によくお伝えください。

●9・21

◇ニューヨークとエリザベスからシヨックを受けるニュースでした。北見の青年たちが計画通りに旅行ができますように。◇今日は荒れた天候です。昨日菜園を耕しておいて良かったです。ジャガイモを植える準備ができています。階下の箱の中に芽が出たのがあります。

## 台所復元調査研究 中間報告!



ピアノン記念館の設計者であるM・ヴォーリスは、「我が家の設計」と「我が家の設備」という本を戦前に出版している。その中で、住宅で台所の占める重要さを特に強調しており、『住宅設計の最初は台所から……』と宣言している。

ピアノン邸の設計図面で、本年台所の食器棚の図面を見つけた事が出来た。この図面を提供してくださったのは芹野与幸氏(ヴォーリス建築事務所史料広報室長)で、当記念館百年記念の記念講演をしていただいたヴォーリス様の方からの協力であった。

既に入手していた図面や我々が聞き取り調査をした古老からの情報などから、台所には石を引き詰めていた事や、掘り井戸が台所にあった事。また大きな「室」があった事なども判っている。

引き続き調査を続けたい!

## ミチノクナシ かな?!!

ピアノンの庭に「ヤマナシ」といわれていた果樹がありますが、岡山理科大学池谷教授にデータを送って検証(略式)していただいたところ、貴重な「ミチノクナシ」と「ニホンナシ」が交雑した人里型ミチノクナシの可能性があると報告でした。道東では非常に貴重なものと……

【写真左】ピアノンの庭でとれた「ミチノクナシ」と栗の実。



### 編集後記

8月後半、9月には大型台風の影響で北見地方にも甚大な被害が出ました。全国の皆様から当会に見舞いのメールなどをいただきました。本当にご心配をいただきました。お陰さまでピアノン記念館には被害がありませんでしたが、近郊の農家や道路・鉄道など現在も復旧工事が続いている状況です。

(理事兼事務局長) 伊藤 悟